

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕

※()内の%表示はいずれも(R5→R6)をあらわす

〔回収率〕

〔生徒(65.2%→63.4%)〕〔保護者(44.9%→61.5%)〕〔教員(100%→100%)〕

保護者への実施については、三者懇談時の回答や重要書類等と同時配付・同時回収するなどに粘り強く取り組み、回収率を大きく向上させた。生徒・保護者ともに今後更なる回収率の向上をめざす。

【学習指導等】

- ・生徒「わかりやすい授業が多い」(81.0%→86.4%)
- ・保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(77.5%→67.9%)
- ・教員「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」(100%→100%)

教員の日々の取り組みの成果が現れ、「わかる授業」の実現に大きく前進した。生徒の現状に対応した更なる授業改善等を進めていくとともに保護者理解への取り組みを充実させる。

【生徒指導等】

- ・生徒「学校に行くのが楽しい」(69.0%→76.3%)、「先生は生徒のことをよく見て対応してくれる」(87.7%→91.5%)、「先生の指導には納得できる」(89.3%→89.8%)、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」(84.5%→89.8%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(84.5%→86.4%)
- ・保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(95.0%→90.7%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」(95.0%→90.9%)、「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(95.0%→87.3%)、「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(97.5%→91.1%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(100%→89.3%)
- ・教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」(91.3%→82.6%)

保護者との連携の重要性を再認識し、生徒が更に楽しく安心して学校生活を送れるよう、生徒に寄り添った指導等を継続していく。

【進路指導等】

- ・生徒「将来の進路や生き方について考える機会がある」(70.7%→84.7%)、「学校は進路についての情報をよく知らせてくれる」(73.7%→86.4%)
- ・保護者「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(97.5%→98.2%)
- ・教員「生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう系統的な進路指導ができています」(69.6%→73.9%)、「生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるようきめ細かい指導を行っている」(78.3%→82.6%)

令和4年度当初からの課題であった入学から卒業までを見据えた計画的な進路指導が行えるようになってきた。進路指導部に加え生徒支援委員会やSSW、外部機関等との連携が充実してきたことが要因の一つと考える。

【学校運営】

- ・学校教育自己診断(教員)の学校運営に係る肯定率(82.2%→80.2%)

教員一人ひとりが孤立することなく学校運営に積極的に参加できるよう、組織的な対応ができる雰囲気づくりを行い、准校長のリーダーシップのもと誰もがやりがいを感じられる学校運営に努める。

【まとめ】

次年度も引き続き、「生徒の居場所づくり」「わかりやすい授業」「進路指導」「学校施設・設備の充実・整備」等に加え、「教職員が働きやすく、やりがいのある職場環境づくり」について重点的に取り組む必要があると考える。